

F—5 栄養摂取から見た食料費の経済性の検討 (第2報)

福岡県社会保育短大 ○出石 康子
松田紀美子

1. 第1報において報告した、栄養摂取から見た食料費の経済性の検討方法の試案を用いて、昭和42・43年の家計調査報告(月報)を資料として、両年に用いられた食料費の経済性を分析的に検討した。

2. 昭和42・43年における各栄養成分の価値係数をもとめ、これを用いて、摂取価値数と使用金額とを対応させて、両者の関係をあらわす数値 m から、食料費の経済性を比較検討した。なおこの資料より必要食料費を推定し、これに対する実際の使用金額から栄養充足率をもとめて、食料費の経済性と共に栄養摂取の実態も検討した。

3. 1) 昭和42・43年の9種の栄養成分の価値係数は、それぞれ下記の如くになった。熱量(1.62, 1.75)動物性たん白質(0.70, 0.76)植物性たん白質(0.43, 0.46)脂質(0.42, 0.44)カルシウム(0.35, 0.34)ビタミンA(0.88, 0.90)ビタミン B_1 (2.85, 3.09)ビタミン B_2 (2.66, 2.80)ビタミンC(0.22, 0.22)(前記42年分後記43年分)

2) 食品の価格の変動にともない、昭和42・43年の価値係数の間には、熱量、 B_1 、 B_2 の如く大巾の上昇をみたものと、逆にカルシウム、Cの如く下降の傾向にあるものがみられる。

3) 上記価値数から推定した昭和42・43年の栄養充足率は共に80%未満で、殊に夏季における充足率の低下が目立つ。